

絲海

第 10 号

編集発行 伊丹市文化財保存協会
伊丹市千僧1丁目1
0727-83-1234(内線426)

文化財探訪

教善寺の
阿弥陀如来立像

伊丹市北伊丹三丁目にある真宗興正派の教善寺は明応(一四九六)の創建であるが、この寺の本尊阿弥陀如来立像はまことに美しいお姿で、しかも大きく、いま内陣一ぱいに安置されている。

寺伝によると天正七年(一五七九)織田信長が有岡城主荒木彌津守を攻めた時、その兵火で鑄物師の良蓮寺が炎上したが、その時辛うじてその本尊をこの寺に助け移したものと記されている。なるほどこの阿弥陀如来立像はこの寺



阿弥陀如来立像

の建物には不つりあい大きく、なおこの寺の従来の本尊はいまも別間に安置されている。

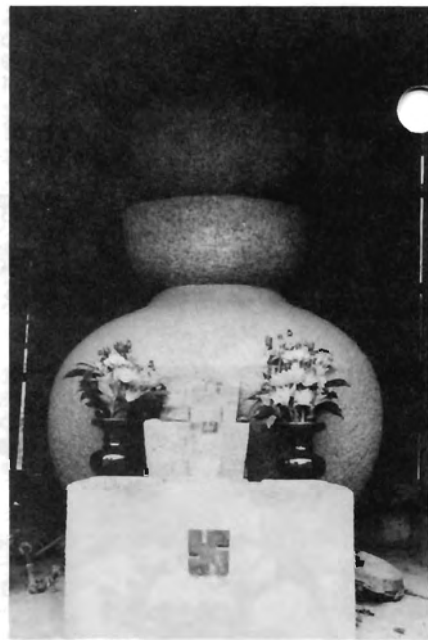
この本尊阿弥陀如来立像は寄木造りの漆箔像であるが、いま剝脱して顔面、胸、手などにわずかに金色を残しているばかりで全体が黒ずんでいる。高さ九六センチメートル、来迎印を結んだ如来形で、肉髻、白毫には水晶を、目には玉眼を入れまことに理智的な表情を現わしている。総体に肉体が豊かで衣紋に写実性があり、とくに両手から垂れた袖の表現は巧みで、鑿の刀法の雄渾なことによってこの像の美術的価値を一層高めている。

顔の輪郭が整って美貌であることや鎌倉仏師の祖、運慶が創始した玉眼を用いたこと、宋風の衣の波立ちを取り入れたことなどから、鎌倉末期の快慶一派の流れを汲んだ優秀な作であることは疑いをいれぬところである。ただし、光背、台座は後補である。

かように優秀な遺作であるから昭和四十年(一九六五)十一月八日市の指定有形文化財に指定された。

(「伊丹市指定文化財」より引用)

和泉式部の墓



和泉式部の墓

伊丹市春日丘四丁目にある和泉式部の墓は、高さ一五二センチ余、花崗岩の美しい五輪塔であるが、地中に埋っていたものを掘出したものといわれ、火輪と地輪とを欠いているのは惜しまれます。

式部は平安朝時代の有名な女流歌人で、越前守大江雅致の女で、和泉守橘道貞に嫁したからこの名があります。

この間にできた一女小式部内侍も有名な歌人でありますがこの子ができて間もなく、冷泉天皇の第三皇子彈正宮為尊親王と恋愛におち夫道貞と別れました。

三年後為尊親王が亡くなられ、こんどは弟師宮敦道親王と親しくなり、五年間恋愛生

活を続けたのですが、この間の大胆率直な描写を和歌につづったものが和泉式部日記で寛弘元年(一〇〇四)の発刊となつている貴重な文献であります。敦道親王が亡くなられてから式部は上東門院に仕え、やがてまた藤原保昌と結婚して丹後に下つたのですが、これもうまく行かず幾ばくもなくして保昌とも別れました。そしてその後の消息が全く判っていません。この式部が丹後に下つて間もない頃、中納言定朝から小式部内侍に「丹後から便りがあつたか」と聞かれ即座に「大江山いくの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」和歌で答えた話は有名であります。

(改訂版)より引用

事業の回顧

昭和62年度の 主要な目標決る

去る5月14日当協会の第25回総会が市立中央公民館で開催され、本年度の事業計画や予算が議決されました。

伊丹はこれまでの長い歴史の中で先人たちが築き上げてきた文化遺産の豊かな都市で

ある。

これら古代からの文化財を保護、顕彰し、次代に伝えるのが我々の使命であり責務でもある。

そこで本年度の主な事業の取り組みは次のとおりです。

一、文化財の啓発事業

▽文学碑現地案内▽文化財探訪▽文化財に関する講演会▽

「古事記を読む」講座の開催

二、文化遺産の顕彰、整備、保存

▽文化財パトロールの実施▽

文学碑シリーズ

作者、出典、作品、建立場所

④⑤ 藤原為家 「続後拾遺和歌集」より



たひころも つまふくかせの
さむき夜に やとこそなければ
いななさきはら

・瑞ヶ丘一 せせらぎの道
・自筆集字碑

各種文化財保存会との連携
三、組織の強化、拡充
▽「絲海」を年2回発行▽会員増加の推進▽役員研修の実施

四、文化財愛護少年団の育成などとなっています。

むぎわら音頭保存会 結成20周年を祝う

去る三月三十一日地元の東浦公園でむぎわら音頭保存会結成二十周年の記念式典と踊りの披露が行われました。

南野に伝わるむぎわら音頭の起源は古く今より約千二百年ほど昔、僧行基が摂津の国の開発に当り、その建設に従事した人や、その土地の住民達の慰安と供養を兼ねて踊った念仏踊りが初めてと言い伝えられ、その後江戸時代に三味線が普及してから今のむぎわら音頭が踊りつがれてきたものです。

昭和44年市無形文化財、昭和52年に県無形文化財に指定されています。

式典のあと、南野文化財愛護少年団員や保存会の方々が、そろいのハッピーに浴衣姿でむぎわら音頭を披露、稲刈り、かまきり、相撲取りなどの動作を太鼓や三味の音に合わせて踊る「曲踊り」をつぎつぎ

と披露してなごやかな雰囲気にも包まれ、会場から拍手がおくられました。

史跡探訪ツアー実施

6月2日兵庫県立歴史博物館、姫路城、日本玩具博物館を巡るバスツアーを行いました。

歴史博物館では兵庫県の歴史を年代順にわけて展示されており、その中に伊丹廃寺から出土した「水煙」の展示や、有岡城と荒木村重のビデオの映像もみることができました。

姫路城は白壁の五層の天守、そして乾の三層の小天守、これらの天守が渡り櫓で結ばれ連立した形は、いま白鷺が飛び立つように見えました。このような優美な姫路城は防備の形が完璧なこと、しかも、その守りの構造がみごとに美に昇華され名城としての認識を新にしました。

最後に白壁の土蔵をかたどった日本玩具博物館を巡ねました。ここでは今は廃絶してしまっただけのものもある郷土玩具や世界中から集ったおもちゃ。今は手が届かないところへ去ってしまったなつかしの品と再会することができました。

伊丹郷町 発掘調査 講演会

市教育委員会と文化財保存協会が8月10日市立中央公民館で講演会を開催しました。

出土品を中心に、考古学からみた伊丹郷町について、と題して、大手前女子大学教授の藤井直正氏より、有岡城跡と伊丹郷町の発掘調査を進める中で有岡城の構造や、有岡城から伊丹郷町にうつりかわる過程を物語る遺構が検出され、出土したさまざまな遺物は、伊丹郷町の盛衰と文化の様相を具体的に示していることや、スライドによる説明などがありました。



講演会風景



「天命」
村上 実沙子

木末よりあたに散りにし

桜花

さかりもなくて

あらしこそふけ

京都六条河原で処刑されたと言われる、伊丹有岡城主、荒木村重の側室、だしの方の歌です。

今陽貴妃と言われた美しいだしの方は、右の歌のようにきっぱりとして、乱れることなく、処刑の土に会釈して、散りぎわ美しく刑に服したと言われています。

それにひきかえ、夫である村重は、逃げ生きのび、逃げ生きのびして後、剃髪し僧形になったのです。

一族郎党何百人かの犠牲の上に、何度かあった死期を逸して生き長らへ、何という武将かと思うのですが、僧形になってあらためた名前、「道龔」を眺める時、村重の心中、想像を越えるものを感じます。死すべき機会を得られないまま、村重は、その後、秀吉

に、彼の才能由にひなされ、名前も、「道薫」と改めさせられ、茶の湯の世界で頭角を現わすのですから、正に、天命というものでしょうか。

村重が武將としての名前を捨てたのと相前後して、信長があっけなく此の世を去ります。待っていたかのように、秀吉が、村重を自分のもとに呼び寄せるのですが、村重が深い教養の持主であったこともさることながら、右のような周りのグット・タイミングが、村重の運命であり、「生」を引っぱって行ったのかもしれない。

一五八三年（天正十一年）頃からの茶湯日記に、頻繁に「道薫」の名前が出ています。一五八六年（天正一四年）頃迄、秀吉の伽藍として、華やかな第二の開花の時期があったようですが、その後の様子は、ルイス・フロイスの書翰によると、村重は、秀吉の怒りにあい、堺で娶った妻と共に家を捨てて、寺院に入ったとあります。一説には高野山へ入ったとあります。

天寿をまとうしたのでしょう。

村重の、戦国の武將らしからぬ、生き方をみて、「命」は天から与えられるものという

思いを深めます。

参考資料

伊丹資料叢書4

八木哲浩編

荒木村重と伊丹城

香村菊雄著

神戸新聞発行

つれづれに拾う

宮下忠重

残暑の中、近江路の文化財学習、「元氣だホイ〜。」と、子どもたちと励まし合った蟬しぐれの近江、大津京の跡に立った。

天智六年二月、中大兄皇子は、妹、間人皇女を小市岡の齊明天皇陵に合葬し、三月に此の大津京に遷都した。旧都、飛鳥を去りがたくその心情を額田王女はこう告げた。

三輪山を しかも隠すか
雲だにも 情あらなも
隠さふべしや

今日も 額田王女を包んだ
比良山風が、礎石の蔭の月草にそそいでいる。

ささ浪の 比良山風の
海吹けば 釣する海人の
袖反る見ゆ。

白村江の大敗、遷都、壬申の乱、大津京の歩みを語りながら、大友皇子の陵をふり返る。

山吹の ちよそいたる
山清水 汲みに行かめど
道の知らなくに。

「ホーレ、この礎石に触れて見よう。鎌足、天智天皇も大海人皇子も此の世には居ないけど、この石を見ていたと思うよ、きつと。」

礎石に触れ、遠い昔の史情を探る子どもたちと、お母さんたち、その仕草に人間無常の心が湧いて来る。

我妹子が 見し柄の浦の
むろの木は 常世にあれど
見し人ぞなき、
何故か、旅人の亡妻の哀しみが浮んで来た。

近江神社から滋賀寺跡の道の辺の尾花の一群の草蔭に、寺の心礎が血なま臭い皇位爭取の乱の跡を、語りかけてくれる。そして、京は荒都となった。

ささ浪の 国つ御神の
うらさびて 荒れたる都
見れば 悲しも

近江の海 夕浪千鳥
汝が鳴けば 心もしのに
古しえ思ほゆ

同行の母親に、僅か五年の近江、大津京への嘆情は、壬申の乱故と語りつゝ石積の中を歩くと、慈眼堂の阿弥陀石仏群が迎えてくれる。早咲き

の秋萩や、時々草花が、
時々花は咲けれど
何すれと 母とう花の
咲き出来すけむ

我が背子が かざしの萩に
置く露を さやかに見よと
月は照るらし

と、遠い万葉の世界から、乙女の恋情を載せてくれる。
日吉大社から振り返る近江の海は、比叡の山端をもれる西日に輝き、仲麻呂噴死を水面が語り、遊猟の蒲生野の遠望は、ロマンの世界に誘う。

茜さす 紫野行き
しめ野行き 野守は見ずや
君が袖振る。

市辺皇子殺害の神話の地に息づく、額田王女の情熱的な恋情は、年がうつり、
古しえを 恋らむ鳥は
霍公鳥 けだしや鳴きし
我が恋ふること

と、古しえを糧として生きる額田王女を浮び上らせ、水面に映してくれる。

今も変らず 日枝の清流の水音ぞ 知るらんと。



事務局 日誌

- 1・7 第18回伊丹市文化財愛護かるた大会(於、図書館)
- 1・11 伊丹市文化財愛護少年團かるた大会(於、中央公民館)
- 1・31 文学碑の説明板設置状況現地確認
- 3・2 糸海(第9号)発行
- 3・16 文学碑の説明板設置状況現地確認
- 3・25 理事会開催 昭和62年度の事業計画、予算について協議
- 3・31 むぎわら音頭保存会 結成20周年記念式典に出席
- 4・7 昭和61年度の会計監査
- 4・16 理事会開催 昭和61年度事業報告、並びに決算報告、昭和62年度事業計画、並びに予算(案)審議
- 5・14 昭和62年度総会開催 昭和61年度事業報告並びに決算報告、昭和62年度事業計画並びに予算(案)審議、原案どおり議決
- 5・29 第1回「古事記を讀む」講座開催
- 6・2 史跡探訪バスツアー

実施、兵庫県立歴史博物館(姫路城)・日本玩具博物館

- 6・18 理事会開催 欠員の副会長選出について協議の結果、副会長に白井忠二氏と決る。
- 7・3 第二回「古事記を讀む」講座開催
- 7・10 第三回「古事記を讀む」講座開催
- 7・14 役員会(正副会長・常務理事) 報告事項 事業の執行状況ほか協議事項
- 7・17 第四回「古事記を讀む」講座開催
- 7・24 第五回「古事記を讀む」講座開催
- 7・31 第六回「古事記を讀む」講座開催
- 8・7 第七回「古事記を讀む」講座開催
- 8・10 講演会開催(於中央公民館) テーマ 考古学からみた伊丹郷町―出土品を中心に―、講師―大手前女子大学教授、藤井直正氏
- 8・21 第八回「古事記を讀む」講座開催

8・28 第九回(最終会)「古事記を讀む」講座開催

「古事記を讀む」講座終了

昭和59年9月から4年間にわたって開講してきました「古事記を讀む」講座が8月で終わりました。開講当初こうした講座を開いても受講者があるかどうか心配でしたが、講師の名講義で毎回満員盛況、受講者は熱心に聴講し、好評のうちに終了しました。

役員紹介

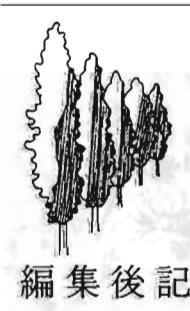
顧問	矢埜 與一
会長	楠 九兵衛
副会長	小西新右衛門
常務理事	荒森 三吉
理事	白井 忠二
理事	佐坂 茂男
理事	稲垣 達郎
理事	久保 武茂
理事	佐々木一雄
理事	垂 泰蔵
理事	宗像 薫
理事	山本 正一
理事	安達 文昭
理事	笹倉 東一
監査	白井 靖夫
監査	熊谷兼太郎

既刊書あんない

- 伊丹の文化財スケッチ集 (I・II) 各三五〇円
- 伊丹の文化財スケッチ集 (III) 五〇〇円
- 伊丹の文化財めぐり(地図と解説) 文字版、版数9月、刷 三五〇円 (旧タミーブックセンター)
- 美術ギャラリー・伊丹市文化財保存協会事務局(社会教育課内)で販売しています。
- 伊丹の年中行事 六〇〇円
- 伊丹の伝説 六〇〇円
- ふるさとのこころをたずねて 四〇〇円
- 伊丹城跡発掘調査報告書II 四五〇円
- 同III 五〇〇円
- 同IV・V 各七五〇円

文学碑の写真パネルを免費で

市内の60カ所に建立した文学碑を写真パネルにして写真展を行って来ましたが、これを希望者に免費で販売します。入用の方は事務局までお申込み下さい。



編集後記

▽残暑の厳しかったことしの夏も過ぎて急に秋の気配が広がってきました。空には一面に觸雲が漂い吹き渡る風も秋の旅情をかきたてます。そこで市内を散策し、新しい伊丹を発見して下さい。歴史と文化の薫り高い「伊丹八景」や文学碑をつづる「文学の散歩みち」そして猪名野神社境内(あじさいセンター北側)にある巨木ムクロジが伊丹市天然記念物に指定され、このほど説明板も立ちました。果実は黒い種子で正月の羽根つき玉に使用されます。これほど大きくて古い木は阪神間でも珍しいという、一度立ち寄ってみてはいかがですか。▽協会の事業などに参加された感想、ご意見、あなたの地域の出来ごとや、最近感じたこと、また楽しいことなどをお寄せ下さい。